

4. 生涯輝くまち

4.1 人権を大切にする共生のまちづくりの実現

(1) 施策の方向性の概要

まちづくりの基礎となる市民一人ひとりの豊かな人間性については、将来にわたって守っていくべきものです。子どもから大人まで誰もが個性や能力を最大限に発揮できるように、市民全員が人権の大切さを意識できるような人権教育や啓発の取組みを推進します。特に、子どもたちへの教育については、インクルーシブ教育の充実や「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくりに取り組みます。また、男女の分け隔てなく、社会で活躍できる仕組みづくり、家庭と仕事、地域活動のバランスが取れた生活支援、LGBT や DV 等の多様化する人権問題に対する取組み等を推進していきます。

(2) 現況や課題の認識

① 人権三法の施行

本市では、市内3ヶ所到人権交流センターを設置して、同和問題(部落差別)をはじめ、あらゆる人権に関する課題を解決するための各種事業を総合的に実施してきました。

国内の動向をみると、2017年に人権三法と呼ばれる、差別を解消するための3つの法律(障害者差別解消法、部落差別解消推進法、ヘイトスピーチ対策法)が施行されました。また、国連でも、人権保護のための取組みが進められ、世界全体で人権を大切にしたい社会の実現を推進しています。

これまで、人権に関する課題に取り組んできたことと、世界全体での人権に対する取組みの潮流を踏まえて、今後一層、人権を大切にしたい共生のまちづくりに取り組んでいく必要があります。



図 人権三法(障害者差別解消法、部落差別解消推進法、ヘイトスピーチ対策法)

② 仕事と家庭、地域のバランスがとれる環境づくり

男女共同参画の実現の観点でみると、本市では、働く女性の割合が2010年から2015年にかけて、大きく増加しています。一方で、世論としては、女性が活躍できる環境の整備だけではなく、例えば、男性が子育てしやすい環境の整備や男女が協力して、仕事と子育てを両立できるような環境づくりも求められています。

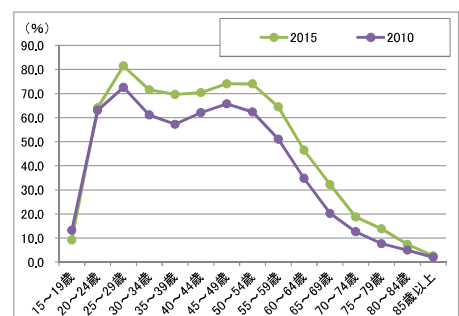


図 本市の女性の労働力人口比率

(3) 施策

① 人権尊重の社会づくり

就学前や学校教育だけでなく、生涯学習における人権教育や啓発を充実していきます。また、市職員や教職員に対する人権研修のほか、家庭や地域において、人権について学ぶ機会も提供していきます。

加えて、人権相談窓口における生活相談等に対して、相談者の立場に立った適切な助言・対応が取れるような支援体制を整備します。

② 男女共同参画の推進

今後、女性がより社会に参画しやすい環境を整備していくことが望まれています。また、地域活動については男女ともに参画しやすい環境整備を推進していきます。

そのために、本市では行政委員会や審議会等をはじめとした施策・方針決定過程への性別にとらわれない人材の参画を推進します。また、本市の組織において、女性管理職の登用を進めます。

加えて、男女問わず自治会やまちづくり協議会、PTA等の地域活動に参加しやすい環境を整えます。

③ 家庭と仕事・地域活動のバランスがとれた生活への支援

家庭と仕事・地域活動の調和がとれた、ワーク・ライフ・バランスを推進することで、心身の健康や生産性の向上等が実現できるということを市内の企業・事業所に対して啓発を行います。また、一人ひとりがワーク・ライフ・バランスを実現するための支援として、育児・介護の支援、育児・介護休業の普及に向けた啓発を実施します。

さらに、本市としては、市職員が積極的にワーク・ライフ・バランスの実現に取り組んでいきます。

(4) 関連する計画等

- 宇陀市人権施策基本計画
- 宇陀市男女共同参画計画（第2次）
- 特定事業主行動計画
- 女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画
- 宇陀市教育大綱
- 宇陀市生涯学習振興指針
- 宇陀市学校教育の指導方針
- 宇陀市いじめ防止基本方針
- 高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画

4.2 子どもたちの教育環境の充実

(1) 施策の方向性の概要

子どもたちは本市の将来を担っていく重要な存在です。子どもたちが社会に出て活躍できるように、健やかに成長できる環境を整えることは重要な使命のひとつです。

本市で育った子どもたちが社会に出て活躍できるように、市内のどの学校でも一定の教育水準を提供することや特色のある教育プログラムの確立、教育環境の充実を図ります。

(2) 現況や課題の認識

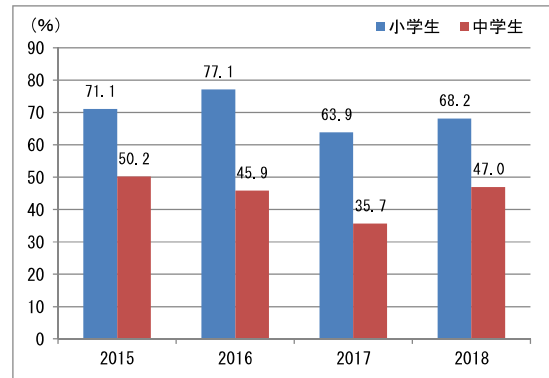
全国学力学習状況調査の結果をみると、本市で今住んでいる地域の行事に参加している割合は2018年小学校で68.2%、中学校で47.0%でした。全国平均が小学校で62.7%、中学校で45.6%であることを踏まえると地域の行事に参加している割合は高いです。

一方で、小学校・中学校ともその割合は、ここ数年の推移をみても増えておらず、子どもたちに郷土を愛する心を育む教育を行っていく必要があります。

本市の教育プログラムについては、既に特色ある取組みを進めています。今後、新しくプログラミング教育に力を入れることで、小学校・中学校が地域の高等学校と連携して、行事や観光等の分野で情報発信をするなど、さらに地域を愛し、地域に貢献できる人材の育成に努めようと考えています。

また、本市の給食については、地場産物を活かした学校給食として、全国学校給食甲子園において、2016年は特別賞、2017年には準優勝、また、近畿農政局長賞も受賞する等、対外的にも高い評価を受けています。

子どもたちが夢を持って、育っていくことができるように、また、他のまちにはない独自の取組みとして、特色のある教育プログラムや地場産物を活かした食育に関しては、注力していく必要があります。



資料：全国学力学習状況調査

図 地域の行事に参加している
本市の小中学生の割合



写真 全国学校給食甲子園での
表彰(2017年)の様子

(3) 施策

① 学校教育内容の充実

本市内のどの学校においても、一定の教育水準が保たれているまちを目指します。また、学力テストにおいても、全国平均以上の点数を目指す取組みを推進します。

加えて、“UDA スタANDARD” の取組みが定着するとともに、授業のユニバーサルデザイン化を推進しながら、地域の高等学校等と連携してプログラミング教育を推進していきます。

② 学校の教育環境の充実

本市の児童・生徒が安心して学べる環境を整備していきます。そのために、将来の人口動態等も踏まえて、学校の適正配置の実現に向けた検討を進めます。また小中学校におけるエアコン等の空調設備の設置を推進していきます。

さらに、学校給食センターが老朽化していることから、建て替えを行うとともに、新しい給食センターと関係機関が連携しながら、「地産地消」や「食育」を推進していきます。

(4) 関連する計画等

- 宇陀市教育大綱
- 宇陀市学校教育の指導方針
- 宇陀市いじめ防止基本方針
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

4.3 多様な学びの場の整備・充実

(1) 施策の方向性の概要

家庭教育や社会教育等を通じた学びは、豊かな心を育むことや生きがいの創出等、生涯を生き活きと輝きながら暮らしていくために重要な役割を担っています。

本市に住む誰もが学びに接することができるように、生涯学習環境の充実や地域での教育力の醸成を図っていきます。

(2) 現況や課題の認識

本市では、市民の学びや活動の場として、生涯学習施設を1ヶ所(大和富士ホール)、図書館を2ヶ所(中央図書館、大宇陀図書館)、公民館を4ヶ所(中央公民館(大宇陀分館)、菟田野分館、榛原分館、室生分館)整備しています。また、中央図書館では親子で楽しむ絵本講座や大人のお

表 公民館等の利用状況

公民館等	中央 (大宇陀)	菟田野	榛原※	室生
① 開館日数(日)	294	292	144	292
② 利用者数(人)	5,451	6,461	12,031	15,172
③ 利用件数(件)	317	489	734	747
④ 1日あたりの利用人数 (人/日) (④=②÷①)	18.5	22.1	83.5	51.9
⑤ 1日あたりの利用件数 (件/日) (⑤=③÷①)	1.0	1.7	5.1	2.5

※2017年10月～2018年3月までリニューアル工事のため閉館

資料：2017年度の実績値

す。

図書館についても、毎年、貸出冊数や利用人数が増加傾向にあります。

しかし、2017年にリニューアル工事を実施した榛原総合センター以外の各施設は老朽化が進んでおり、築40年を経過したものも多くあり、施設の修繕等による長寿命化を図る必要があります。

また、多様化する市民のニーズに合わせて、新しい取組みを検討していく必要があります。その際には、まちづくり協議会や自治会等の市民と公民館等が協力して、それぞれの地域の実情を踏まえて企画することも考えられます。

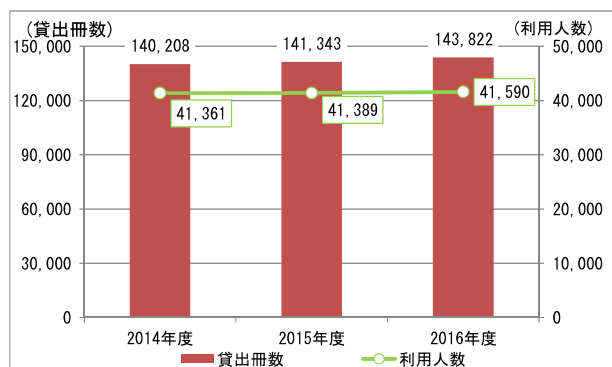


図 図書館の利用状況の推移



写真 中央図書館の様子

(3) 施策

① 生涯学習環境の充実

関連する計画に基づき生涯学習を支援する施設を整備するとともに、教室や講座、イベント等を開催し、体験の場を整備していきます。特に、リニューアル工事が終了した榛原総合センターについて、より市民の方々が利用しやすく、コミュニケーションが図れる施設となるように取り組んでいます。



写真 リニューアルした榛原総合センター



写真 講座やイベントの実施の様子

② 地域の教育力の醸成

学校教育に対して、地域の方々が積極的に参画する等、学校、家庭、地域が一体となり、地域ぐるみで子育てをしていく体制を作ります。特に、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の導入や学校地域パートナーシップ事業の展開について、具体的な検討を進めます。

また、子どもがスポーツ・レクリエーションを通じて相互交流を深める事業を支援します。さらに、青少年の健全育成のための取組みについても支援を行います。

(4) 関連する計画等

- 宇陀市教育大綱
- 宇陀市生涯学習振興指針
- 宇陀市子ども読書活動推進計画
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

4.4 スポーツ・芸術・文化の振興

(1) 施策の方向性の概要

スポーツ・芸術・文化は豊かな人間性を育て、心身の健康の維持や想像力と感性の育成等、人間が人間らしく生きるための糧となるもので、生きがいのひとつです。また、スポーツ・芸術・文化を通じて、他者と共感しあう心を育み、相互理解を促進する等、様々な人が共に生きる社会の基盤を形成するものです。

市民それぞれが生きがいをもち、また、相互理解を深められるように、スポーツ活動の充実・支援や芸術文化環境の充実を推進していきます。

(2) 現況や課題の認識

① スポーツ施設の老朽化

本市では、総合運動場や総合体育館をはじめ、市内各箇所に市民が利用できるスポーツ施設を整備しています。特に室内温水プール「アクアグリーン榛原」については、近隣市にはない本市独自の施設であり、市外からの利用も見られます。

一方で、施設の多くで老朽化が進んでいます。今後も継続して利用できるようにするためには、設備の更新や長寿命化を図る必要があります。



写真 室内温水プール「アクアグリーン榛原」

② 市民・行政一体となったスポーツ振興

スポーツのイベントに着目すると、宇陀市民スポーツ大会や宇陀シティマラソン等の大規模なスポーツイベントを定期的に開催しています。宇陀シティマラソンについては、市外からも多くの参加があります。

また、スポーツを愛する市民で構成される宇陀市体育協会もあり、行政だけでなく、市民も一緒に、取組みを進めています。



写真 宇陀シティマラソン

③ 芸術・文化の振興

市民の生活水準を高めることを目的として、市民が芸術・文化に親しむことができる環境整備を行い、多様性のあるまちづくりを進めています。その中で、文化会館を芸術文化振興の拠点としています。しかしながら、文化会館は完成後27年が経過しました。大規模改修を実施して、芸術・文化に関する鑑賞機会の充実を図る必要があります。



写真 文化会館かぎろひホール

(3) 施策

① スポーツ活動の支援・充実

本市の施設について、老朽化が進んでいるため、計画的な整備を推進していきます。

スポーツ活動の活性化に向けては、本市で開催する各種大会への参加者数の増加を図るため、運営にあたっての創意工夫を行います。子どもの体力向上のひとつとして、小学生を対象にした駅伝チャレンジ大会の開催や奈良県が主催する市町村対抗子ども駅伝大会においては、入賞を目指して取組みを進めていきます。



写真 駅伝チャレンジ大会の実施の様子

② 芸術・文化環境の充実

芸術・文化活動による地域の活性化を図るため、文化会館をはじめとした施設を有効的に活用していきます。また、住民主体による活用が広がることで、地域の自然・生活・文化に根差した魅力的な地域資源の掘り起こしを目指します。

また、老朽化している文化会館の長寿命化に向けた改修や修繕を進めます。



写真 住民主体による「松山華小路」の様子(左)と文化会館での吹奏楽フェスティバルの様子(右)

(4) 関連する計画等

- 宇陀市教育大綱
- 宇陀市生涯学習振興指針
- 社会体育施設等個別施設計画
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

5. 自然豊かなまち

5.1 豊かな自然環境の保全・活用

(1) 施策の方向性の概要

本市は周囲を豊かな山林に囲まれ、美しい川が流れ、空気もきれいで大変良好な自然環境の中に位置しています。この自然環境や美しい山々ときれいな空気・水が生み出す風景は本市の強みです。また、市民が子どもの頃から慣れ親しんだ風景のひとつでもあります。

豊かな自然環境を後世に残せるように保全していくとともに、本市の重要な地域資源のひとつとして活用を図っていきます。

(2) 現況や課題の認識

市民アンケート調査等では、美しい自然環境は本市の強みの一つであるという意見が多くありました。宇陀市みらい会議や職員ヒアリングでは、子どもの頃から常に身近にあるものであり、後世に残していくべきであるという意見も挙がっています。

また、市内には、貴重な動植物も多く生息・生育しています。例えば、市内の河川には特別天然記念物であるオオサンショウウオが生息しており、2012年度からは周辺



写真 美しい自然景観

自治体とも協力して、保護活動を実施しています。さらに、植物についてみると、環境省レッドリストの準絶滅危惧種に指定されているカザグルマの自生地や本市を自生南限地とするスズランの群落地があり、保護活動や生育環境の保全活動を行っています。

これらの美しい自然環境を、今後に残していくことが重要な課題です。



写真 本市の貴重な動植物(左：オオサンショウウオ 中：カザグルマ 右：スズラン)

(3) 施策

① 自然環境の保全・活用

本市が持つ自然を後世に継承していくため、自然環境の保全に努めます。また、開発等の際には、自然環境に対する影響を考慮しながら事業を進めていくこととします。特に、本市に自生する天然記念物等の生育調査や環境整備を行うとともに、生育量の増加に努めます。

加えて、ごみゼロ美化運動等の活動を通じて、市民の環境意識の向上に取り組むとともに、地域環境保全推進事業等によって不法投棄の減少につなげることを目指します。



図 ごみゼロに向けた地域のパトロール活動の実施状況

② 環境を活かした持続的发展

本市の魅力である農地や森林等の豊かな自然環境や美しい里山を保全するとともに、宇陀市らしい景観を創出し、地域の活性化を図るための活用を目指します。

特に、中山間地域の農林業の振興や環境保全型の地域産業の振興に取り組みます。

(4) 関連する計画等

- 宇陀市森林整備計画
- 宇陀市公営住宅等長寿命化計画
- 公共建築物における宇陀市産木材利用推進方針
- 向瀬スズラン群落保存管理計画

5.2 生活環境の整備・充実

(1) 施策の方向性の概要

人々の生活により生じるゴミやし尿等を適切に処理することは、本市での快適な暮らしを維持する上で重要です。そのために、し尿処理施設の整備等の生活衛生環境の向上や火葬場等の整備を推進します。

また、ゴミ等をできるだけ、少なくするようリサイクルに関わる取組みも推進します。

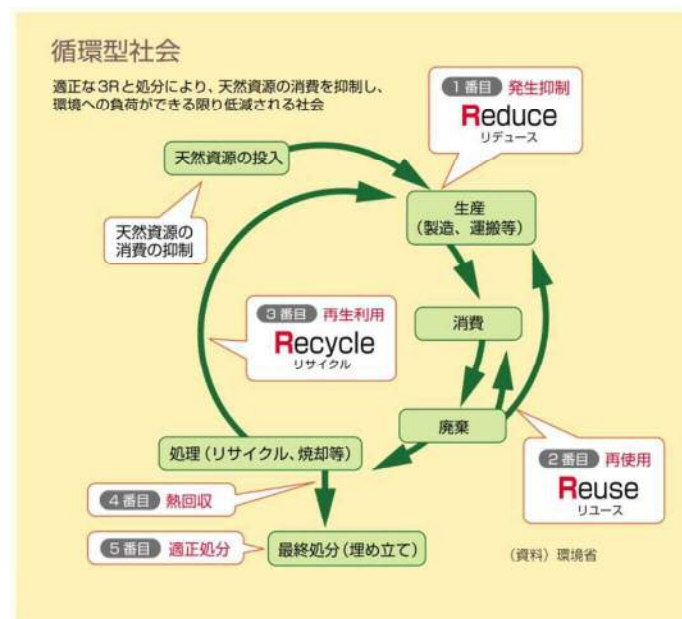
(2) 現況や課題の認識

本市で出た可燃ごみ等は、宇陀クリーンセンターと東宇陀クリーンセンターで焼却処理しています。しかしながら両施設とも建設後20年ほど経過していることから、宇陀市・桜井市・曾爾村・御杖村の4市村は協議会を設立し、ごみ処理広域化の具体化に向けた検討を進めているところです。

今後ごみ処理の安定的継続の確保、行財政運営の効率化及び環境負荷の低減を図る必要があります。

また、国では循環型社会の構築に向けて、天然資源の消費抑制と環境への負荷の低減を目指しています。

循環型社会の構築に向けて、本市でも3R活動の推進等、市全体をあげて取り組んでいく必要があります。



資料：環境省

図 循環型社会のイメージ

(3) 施策

① ごみの適正処理の推進

集団資源回収助成事業や生ごみ処理機等購入助成事業を通じて、本市におけるリサイクルを推進するとともに、ごみの減量化を図ります。

② 生活衛生環境の向上

し尿や生活排水を処理する施設を単独処理浄化槽から合併処理浄化槽へ更新することで、水質保全や公衆衛生の向上等を図ります。また、し尿処理や狂犬病予防注射、野良猫の避妊手術補助をはじめとして、快適な生活衛生環境の向上に努めていきます。



写真 し尿処理を担う宇陀衛生センター

③ 火葬場等の整備

市営榛原斎場や市営不帰堂火葬場及び市営霊園について、適切な管理・運営を行います。

(4) 関連する計画等

- 奈良県桜井・宇陀地域ごみ処理広域化推進協議会

5.3 公園・緑地の整備・活用

(1) 施策の方向性の概要

公園や緑地は人々の心に潤いを与えるとともに、交流やにぎわいの拠点となる場所です。既存の公園を良好な状態に保つための維持を進めていきます。さらに、公園をより一層よいものとしていくため、公園・緑地を活用した新たな取組みの検討等も進めていきます。

また、今後の大規模な施設立地や住宅立地等のまちづくりの全体像も踏まえて、必要に応じて、新たな公園の整備も検討していきます。

(2) 現況や課題の認識

本市には、地区公園を2ヶ所、総合公園を2ヶ所整備しています。また、その他に街区公園等の小規模な公園・緑地も合わせると、全部で48ヶ所、約46.4haの都市公園・緑地を整備しています。

また、特色のある公園も数多くあります。例えば、室生山上公園芸術の森は、環境芸術の第一人者であるダニ・カラヴァン氏が監修しており、園内には様々な彫刻作品があります。近年はSNS等で「写真映えする公園」としても注目されています。

平成榛原子供のもり公園は、恐竜をイメージした全長400mの大型遊具が子ども達に人気で、自然いっぱいの遊歩道、バーベキュー場、キャンプ場、暑い季節には簡単な水遊びのできるスポットもある公園です。

心の森総合福祉公園は、面積7.3haの広大な公園で、多世代の人々が、気軽に利用してリフレッシュや交流のきっかけを創る交歓の場として、中心部にふれあい交流広場、周辺に遊具やグラウンドゴルフ場などがあります。

交流人口の増加等を図る上では、これら公園を活用していくことが重要です。



写真 市内の特色ある公園の例

(3) 施策**① 公園・緑地の維持・管理**

本市の公園について、公園施設の計画的な更新や修繕を行うことで長寿命化を図ります。

また、誰もが安全で安心して利用できる公園整備を実施して、適切な維持管理に努め、長きにわたって多くの利用者が快適に利用できるようにしていきます。

② 新たな公園・緑地空間の整備

市有地の有効利用及び宿泊事業と一体的整備による交流人口の増加を目指します。

(4) 関連する計画等

- 公園施設長寿命化計画
- 緑の基本計画

6. 地域力を発揮するまち

6.1 市民と行政の協働のまちづくり

(1) 施策の方向性の概要

本市が今後も発展していくためには、市民と行政が協働していくことが重要です。そのために、市民と行政が情報を共有して、問題点や課題を議論できるような仕組み・体制づくりを推進します。

(2) 現況や課題の認識

本市では、市民と行政がともにまちづくりを進めるうえで、市全体としては、まちづくり協議会によるまちづくり活動の推進や市政モニターの実施、市政に関わる計画に関するパブリックコメントの実施、担当部局毎の独自の取組みとして、意見交換会やワークショップ等を実施しています。

2018年からは市長と市民の意見交換会も実施して、市民と行政が協力して、将来を考える体制づくりを進めています。

また、まちづくりに対する市の方針や考え方、現状等については、市のホームページや広報誌「広報うだ」等で市民にも広く公開しています。

さらに、本市のあり方を考える重要な場所である議会については、宇陀市自主放送「うだチャン11」で生放送して、議場に行かなくても、議事の内容等を多くの方と共有できるようにしています。

今後も市民と行政での協働を進めるために、まちづくり協議会や自治会の活動の継続支援や積極的に情報発信をすることが必要です。

9月1日(土)	9:30～11:30	(室生 振興センター大集会室)
	14:00～16:00	(榛原 総合センター大ホール)
9月8日(土)	9:30～11:30	(大宇陀 中央公民館大ホール)
	14:00～16:00	(菟田野 いきいきホール)

宇陀市役所 秘書広報情報課 ☎ 82-3912 / IP ☎ 88-9083

図 市長と市民の意見交換会



写真 「うだチャン11」での議会中継の様子

(3) 施策

① 積極的な情報発信

市が保有する行政情報の提供を積極的に行い、市民との情報共有に努めます。また、会議録検索システム等の様々な技術や機会を活用して、より効果的な情報発信の仕組みづくりに努めます。

さらに、市民や民間事業者が利活用できるオープンデータの提供に取り組みます。

② 市民の協働と参画の推進

『自分たちの地域は自分たちでつくる』という意識のもと、市民・行政・事業者が対等に役割を担い合い、それぞれの特性を生かしながら連携・協力し、より大きな成果を生み出すため市と協働し、まちづくりの推進に努めていきます。

特に、市内各地のまちづくり協議会や自治会とともに各地域の課題に取り組んでいきます。その中で、まちづくりや地域情報が相互に交換できるシステムの構築や地域課題を解決するための講座や研修会の開催を支援していきます。

また、宇陀市自主放送「うだチャン11」やSNS等を活用した市民の情報交換の場を提供していきます。



写真 まちづくり協議会全体の懇談会

(4) 関連する計画等

- 宇陀市地域情報化計画
- 宇陀市観光基本計画
- 新市まちづくり計画

6.2 健全な行政運営の推進

(1) 施策の方向性の概要

本市の持続的な発展を支える上では、社会潮流の変化や多様化する市民のニーズを的確に捉えて、行政サービスの向上を図っていくことが重要です。一方で、行政サービスの向上を図るためには、長期的な視点に立った財政運営も必要不可欠です。

今後の発展のために、行政サービスの向上や業務の効率化、財政運営の健全化を図ります。

(2) 現況や課題の認識

本市では、2006年から宇陀市行財政改革大綱及び実施計画を策定して、行財政の健全化に向けた取り組みとして、職員数の削減や事務事業の見直し等を実施して、財政の健全化を推進してきました。その結果、本市の財政状況は年々改善されてきてはいるものの、依然として厳しい状況にあるといえます。

一方で、本市の特性として、中山間地域に集落が点在している状況も踏まえると、これ以上の職員数削減は、地域に寄り添った行政サービスの提供に支障をきたすことも考えられます。そのため、今後はこれまで以上に行政運営の効率化が求められています。

また、行政サービスの向上を図るために、2015年から始まったマイナンバー制度や ICT などの新しい制度・技術の更なる活用を推進する必要があります。

概 要



マイナンバーとは？

平成27年10月から、日本国内の全住民に通知される、一人ひとり異なる 12桁の番号をマイナンバーといいます。個人が特定されないように、住所地や生年月日などと関係のない番号が割り当てられます。また、法人には1法人1つの法人番号(13桁)が指定されます。

マイナンバーで、もっと便利に暮らしやすく。

マイナンバーは各機関が管理する個人情報と同じ人の情報であることを正確かつスムーズに確認するための基盤になります。さらに、国や地方公共団体が分散管理する情報の連携がスムーズになり、様々なメリットをもたらします。

公平・公正な社会の実現	国民の利便性の向上	行政の効率化
マイナンバーの活用により、所得や他の行政サービスの受給状況を把握しやすくなります。 負担を不当に免れることや不正な受給の防止に役立ちます。 本当に困っている方へのきめ細かな支援ができます。	年金や福祉などの申請時に、用意しなければならない書類が減ります。 これにより、行政手続も簡素化され、国民の負担が軽減されます。 行政機関にある自分の情報を確認したり、様々な行政サービスのお知らせを受け取ることがスムーズにできるようになります。	行政事務が効率化され、国民の行政ニーズに、これまで以上に対応できるようになります。 被災者台帳の作成などにマイナンバーを活用することで、迅速な行政支援が期待できます。
		



マイナンバーは生涯にわたって使うものです。
住所が変わっても、マイナンバーは原則変わりませんので、大切にしてください。

(3) 施策**① 行政サービスの向上**

マイナンバーカードの交付により、多くの証明書がコンビニで取得いただける等、利便性の向上が見込まれます。マイナンバーカードの活用の実現に向けて取組みを推進します。また、分かりやすい内容を広報等で伝え、普及に努めます。

さらに、ICT を活用した行政事務の効率化及び省力化による行政手続き等の迅速化を検討し、更なる行政サービスの向上を図ります。

② 効率的な業務運営体制の構築

行政課題や多様な市民ニーズに即応した行政サービスを実施するために、人的資源の効果的な配置・活用を図ります。

また、職員の研修を行い、考課の精度を高める等、人事考課（評価）により能力、実績主義を人事管理の基礎として、自らの強み弱みを把握して自発的な能力開発等を行う等、職員の人材育成に取り組めます。

③ 健全な財政運営

予算の内容や財政状況を市民に分かりやすく積極的に公開することで、透明性の高い財政運営を推進します。

また、将来にわたって安定した行政サービスを提供していくために、積極的な財源確保や受益者負担の適正化に取り組めます。財政規模のスリム化や地方公営企業会計と特別会計の経営健全化の取組みを進め、歳入に見合った事業規模に転換していきます。

加えて、自主財源を確保するため、市税等の収納率を更に向上するとともに、納税者にとって納付しやすい環境づくりに取り組めます。

(4) 関連する計画等

- 宇陀市地域情報化計画
- 宇陀市行政改革大綱及び実施計画
- 宇陀市の補助金の適正化に関する方針(H22. 10. 8 通知)
- 宇陀市公共施設等総合管理計画

6.3 広域行政の推進

(1) 施策の方向性の概要

人口減少・少子高齢化の進展や観光需要の増大等については、本市が単独で取り組むよりも、近隣の自治体等と協力して取り組む方がより大きな効果を得られる場合もあります。近隣自治体等と協力して取り組んだ方が良い事業等については、協力体制を組んで、事業を推進できるように図ります。

(2) 現況や課題の認識

本市では、広域的な文化、スポーツ、イベント、観光等の事業振興のために、桜井市・曽爾村・御杖村と「桜井宇陀広域連合」を1997年に設立しています。

桜井宇陀広域連合では、各自治体が協働して、サッカー教室やスポーツイベントの実施、観光ガイドサイトの公表等を実施しています。

また、本市と名張市・曽爾村・御杖村・山添村・東吉野村とは、2017年に東奈良名張ツーリズム・マーケティング(略称:ENN)を設立しました。ENNでは、東奈良及び名張市エリアの観光資源の掘り起こし、商品の企画・販売等を行い、インバウンド観光を中心とした観光事業の推進を図るとともに、広域観光における観光事業の健全な発展と振興、地域の活性化を図ることを目的としています。

ENNでは、HP等を通じて、地域の観光資源等を国内外に発信しています。

各近隣自治体が広域連携を行うことで、それぞれの特色が融合した独自の施策や事業を展開する必要があります。



図 桜井宇陀広域連合主催のイベント



大阪、京都、奈良市から1時間～1時間半。大自然と伝統の東奈良名張エリアにぜひお越しください

図 東奈良名張ツーリズム・マーケティング(略称:ENN)のHP

(3) 施策

① 広域行政の推進

歴史的及び地名等のつながりによる他都市との市民、職員の相互交流を深め、姉妹都市提携を結ぶことや文化交流や親善に努めます。

(4) 関連する計画等

- 宇陀市観光基本計画

6.4 地域力の再生・強化

(1) 施策の方向性の概要

行政サービスの向上は本市の発展を支える上で重要です。一方で、人口減少・少子高齢化の進展による縮小が見込まれる本市の財政状況を踏まえると、人口規模に見合った行政サービスを考える必要があります。市民が主体となって、にぎわいの創出や次世代の担い手を育成できるように地域力を高めていきます。

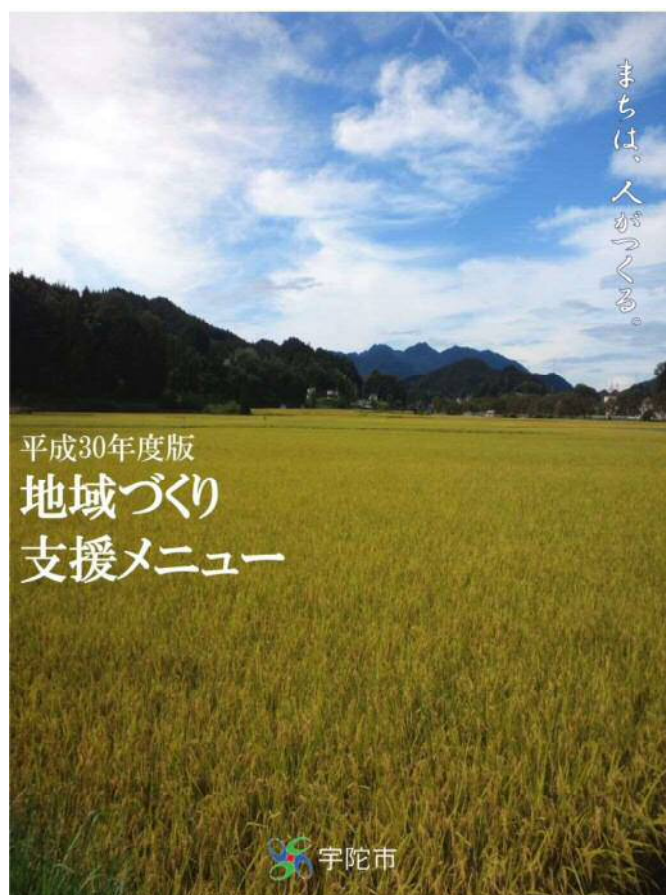
(2) 現況や課題の認識

本市では、行政だけではなく、自治会やまちづくり協議会、NPO 団体、その他任意の市民団体等の様々な人がまちをより良くするために、独自に活動を進めています。

また、本市では、地域づくり支援メニューとして、本市のまちづくりに携わる団体への支援制度を整備しています。

宇陀市みらい会議においても、本市の望ましい将来の実現に向けて、多くの人に集まって頂くことができました。

少子高齢化の進展や人口減少、東京への一極集中等の本市を取り巻く厳しい環境に対応するために、様々な人が力を合わせる必要があります。



(3) 施策

① 地域力の向上・強化

地域社会の基盤である自治会やまちづくり協議会との協働や支援を通じて、地域力の向上・強化を図っていきます。

② 市民活動の支援

「まちおこし・地域文化振興」事業や海外の若者をホームステイ宅で受け入れたりする市民活動等、市内で活動する市民団体が実施する新規又は既存の活動の拡充となる自主的なまちづくり事業を支援することで、地域の活性化及び賑わいづくりにつなげていきます。

また、市民主導による地域のイベント等の運営を定着させていきます。

(4) 関連する計画等

- なし